



なんでも相談室

今月の
ドクター

函館中央病院 耳鼻咽喉科 科長
赤澤 茂先生

平成15年北海道大学医学部医学科卒業。その後、北海道大学病院、函館中央病院、市立釧路総合病院などの勤務を経て、平成23年に函館中央病院 耳鼻咽喉科へ。今年、科長へ就任し、現在に至る。



Q 一度、中耳炎にかかったら、頻繁にかかるようになってしまいました。中耳炎は癖になるのでしょうか。

A 急性中耳炎を繰り返す状態を「反復性中耳炎」と呼ぶことがあります。「癖になった」というよりは、その子がかかりやすい状態にあると考えるのが良いと思います。元々子供は急性中耳炎にかかりやすく、生後1歳までに62%、生後3歳までに83%の子が1回は罹患するという海外の報告もあります。免疫能が未熟な生後6ヶ月から2歳までの間に特に多く、中耳炎を起こす菌への抵抗力の獲得が遅い子もいます。他にも様々な要因があり、母乳

栄養児では人工栄養児に比べ急性中耳炎にかかる頻度が明らかに少ないです。また、低年齢からの集団保育、おしゃぶりの使用、受動喫煙が危険因子としてあげられています。治療は急性中耳炎にかかる度にしっかりと抗生物質で治療することや鼓膜切開術を併用するのが通常の方法ですが、短期間に頻繁に繰り返す場合には鼓膜換気チューブ挿入術という治療が適応となることもありますので、御担当される先生とよく相談してみてください。

Q アレルギー性鼻炎は治りますか。

A アレルギー性鼻炎の発症には体質が関与しており、自然改善が少ない病気です。特に小児では成長に伴いいくらか症状が良くなる子もいますが、いわゆる治癒は稀で、ほとんど成人まで移行します。一方、中高年以降ではある程度自然改善もあると考えられる報告もみられます。長期的に症状を良くする可能性のある治療として、免疫療法というものもあります。定期的に注射を行う皮下免疫療法が保険適応ですが、施行施設は少なく(当院でも施行し

ておりません)、全ての人に効果がある訳ではなく、手間、副作用の面から一般的とは言えません。舌下免疫療法という新しい治療の範囲が広がれば、もう少し一般的になるかもしれませんが、まだ先になるようです。現状では内服、点鼻等の治療を受けつつ、原因となる物質を避けること(ハウスダスト、ダニならば家、寝具のママな掃除、花粉症ならば花粉を避けて家に持ち込まないような対策)が最もお勧め出来る方法と言えます。



社会福祉法人 函館厚生院

函館中央病院

院長 橋本友幸



総合周産期母子医療センター

北海道がん診療連携指定病院

日本医療機能評価機構認定施設

臨床研修指定病院

診療
科目

内科・消化器内科・循環器内科・小児科・外科・乳腺外科・消化器外科・肛門外科
整形外科・形成外科・脳神経外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科
耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・病理診断科・歯科口腔外科・麻酔科(斉藤 達志)

人間ドック
随時受付

〒040-8585 北海道函館市本町33番2号
TEL 0138-52-1231(代表) / FAX 0138-54-7520
<http://www.chubyou.com/>

